

## ショートコメント vol.320 (2024年5月10日)

テーマ：消費のペースを占う百貨店、スーパーの実質売上

～直近でスーパーの動きに大きな変化。今後のカギは実質賃金の推移～

### ●百貨店、スーパー売上の好調

足元で、百貨店、スーパー売上は前年を上回る動きが続いている。

一見、値上げなどの効果で売上は好調に推移しているように見えるが、そうとも言い切れない。特にスーパーでは、店頭での慎重な動きが指摘されており、低価格指向が強まっているとの声は多い。

売上が増加傾向にあることはもちろん明るい材料であるが、肝心なのは値上げ分を差し引いた実質売上の動きであろう。仮に両者とも増加が続いていれば、足元の消費全体についても、ポジティブな見方が可能となる。

そこで、百貨店とスーパーの実質売上を推計し、その動きを見てみることにしたい。

### ●百貨店、スーパー物価指数の試算

消費者物価の品目別データや、百貨店、スーパーの商品構成をもとに、「百貨店物価指数」、「スーパー物価指数」を試算した結果が図表1である。

その推移をみると、両者ともに昨年後半にピークアウトし、前年比で4%前後の上昇率となっている。いずれも消費者物価の伸びを上回っているが、その要因は百貨店、スーパーの売上構成にある。

両者ともに、食料品や家事雑貨、家事用消耗品、身の回り用品といった、値上げの目立つ商品の構成比が高い。結果として、百貨店、スーパー物価が消費者物価を上回る結果につながったとみられる。

### ●実質売上の推移

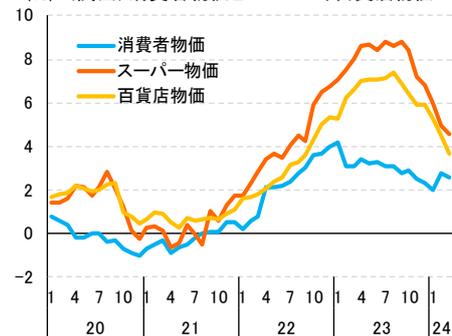
こうした百貨店、スーパー物価指数をもとに、両者の実質売上をみると、前年比での動きは大きく異なる。

まず、百貨店の実質売上は前年を大きく上回る推移となっている(図表2)。直近では2けた増となる月もあるなど、非常に好調な動きといえよう。

一方、スーパーの実質売上は直近で大きな変化がみられる(図表3)。21年末ごろ以降、長らく前年を下回る動きが続いていたが、直近の2月から3月にかけてマイナス幅が一気に縮小し、プラスへの転換が迫っている。

好調が続く百貨店については、やはりインバウンドの存在が第

【図表1】 (関西)消費者物価とスーパー、百貨店物価



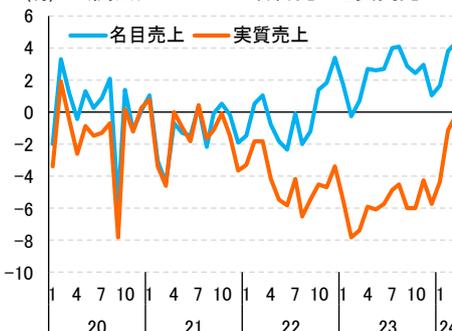
(出所)経済産業省「商業動態統計」、総務省「消費者物価」を元に、リそな総研作成

【図表2】 (関西)百貨店の名目売上と実質売上



(出所)経済産業省「商業動態統計」、総務省「消費者物価」を元に、リそな総研作成

【図表3】 (関西)スーパーの名目売上と実質売上



(出所)経済産業省「商業動態統計」、総務省「消費者物価」を元に、リそな総研作成

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

一に挙げられる。日銀の免税売上の推移が示すように、円安による追い風の中、コロナ前を大きく上回る推移が続いている（図表 4）。さらに、株高による効果もあげられよう。株価の上昇傾向が続く中、外商客を中心に、高額品の販売の好調が続いている。

### ●スーパーの実質売上の展望

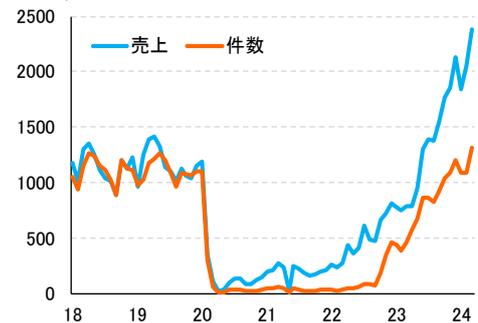
その一方で、スーパーの動きについては見方が難しい。これまで実質賃金の減少による節約志向の影響で、食料品や衣料品などの生活必需品を中心に、実質売上の減少が続く結果が続いていた。

足元で改善がみられるものの、2月ほうう年効果、3月は15年5月以来の増加率を記録した結果であり、一過性の感が否めない。

今後もスーパーの実質売上が継続的にプラスとなるためには、やはり実質賃金の増加が欠かせない。一般的に、今春の賃上げ効果は夏以降に顕在化するとの予想が多く、そのタイミングで実質賃金もプラス転換することが期待されている。

ただ、同じタイミングで物価についても、電気代・ガス代の補助終了などで大きく上がることから、現時点で予断は許されない。ひとまずは今夏にかけての賃金、物価の動きが注目されよう。

【図表 4】  
(13年4月 =100) (関西) 訪日客による免税売上の推移



(出所) 日本銀行大阪支店「百貨店免税売上」

本件照会先: 大阪本社 荒木秀之  
TEL: 06-7668-8805 mail: hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。